



●科学(サイエンス)からまちづくりを考える

「TOKAI原子力サイエンスフォーラム」

3月6日、「TOKAI原子力サイエンスフォーラム」が、東海村産業・情報プラザ「iVi」(旧リコッティ)で行われました。このフォーラムでは、村の「地域社会と原子力に関する社会科学的調査研究事業」で今年度採択された3件の研究に関する報告のほか、「サイエンス」、「まちづくり」に関する講演が行われました。採択研究の報告では「自主防災」、「広域避難計画」、「高レベル放射性廃棄物の処分」などのテーマに関する研究成果が、若手研究者から報告されました。なお、報告の詳しい内容については村公式ホームページで紹介しています。



大金誠さん
(筑波大学)



中川唯さん
(東京工業大学大学院)



渡辺凜さん
(東京大学大学院)

「地域社会と原子力に関する社会科学的調査研究事業」から、本年度の調査・研究の成果について報告を行った若手研究者の皆さん

●子育てアドバイザーとして活躍！川崎さん・里子さんに表彰状

平成27年度「県民健康づくり表彰」

2月17日、茨城県庁(水戸市)で行われた平成27年度「県民健康づくり表彰式」において、川崎久美子さん(照沼)と里子めぐみさん(那珂市)が保健福祉部長賞を受賞し、3月1日、村長へ報告に訪れました。これは、長年にわたり村の子育てアドバイザーとして、お子さんを育てる上で不安を感じている家庭を支援するための訪問活動に精力的に携わり、母子保健の向上に尽力したことが評価されたもの。親や兄弟に相談できないことでも、子育てアドバイザーには相談してくれることがあるといいます。川崎さんと里子さんは、「訪問先



【写真左から】里子さん、山田村長、川崎さん

の子育てをする親と接し、会話を交わすことで、信頼関係を築き、日ごろから話しやすい雰囲気をつくるのが大切です」と話していました。

●イモソーと一緒に、ほしいもについて学びました!

“ほしいもについての勉強会”

3月3日、石神小学校で、3年生を対象に“ほしいもについての勉強会”が行われました。これは、ほしいもの歴史や品種、作り方などを知ることで、村の特産品であるほしいものに興味や愛着を持ってもらおうと、村内の小学3年生を対象に、ほしいもに関する説明(石神小学校以外は資料配布のみ)を行うもので、村として初の試みとなりました。村内でもほしいも農家が少ない石神地区——この日の勉強会にはイモソーも駆け付け、子どもたちは、説明を受けた後、袋詰めされたほしいもを手渡されました。ほしいもにはいくつか



の品種があることも学んだ子どもたち。いろいろ食べて、おいしさの違いを見つけられるといいですね。

●原子力関連技術者等の人材を確保・育成するために

「原子力人材育成・確保協議会設立総会」

2月22日、役場で「原子力人材育成・確保協議会設立総会」が行われました。東日本大震災以来、減少傾向にある原子力関連技術者等の人材。これは、そのような人材を確保・育成していくための事業を協議会として展開していこうというもので、まずは村内の原子力関連企業など9社を含む産学官で設立されましたが、随時入会を受け付けています。山田村長は、「個々の原子力関連企業が同じ方向を向いて、良いスタートが切れたと思う。村としても協議会を支援して、人材確保につながればと思う」と話し、今後の展開に期待を寄せました。

